



北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No45
文責 芹川博文
3月21日(金)

「きつい」が「楽しい」に変わる時

～ 2年生 立志式 「ようこそ先輩」から伝わった熱い思い ～

北中卒の先輩の話に「空気の変化」を感じました。そして、北中らしい温かさが広がりました。3人の先輩は、3年前に、星野 南海子 先生、宮崎 貴臣 先生が担任した教え子たち。まるで、鮎が川を上って帰って来るように、大きく成長した姿で後輩たちにそれぞれの辿った道を紹介しました。

3人に共通していたのは、温かさ地道に努力を重ねた姿。これは、私が北中で感じてきた空気感とそのまま重なります。立志式の「特別授業」として聞いた2年生たち。彼らがこの北中を卒業して「鮎帰り」する日を想像しました。



渡辺 悠斗 さん（高校では下宿しながら水泳に没頭。卒業後は海上保安庁へ）

「泳ぎの速い1年生が入部して刺激を受けた。努力を続けることで中3の時驚くほどタイムが伸びた。高校ではインターハイの後泣いていた先輩の姿を見てやる気スイッチが入った。毎朝5時半起きで帰宅は午後9時。それから洗濯もした。「きつい」が「楽しい」に変わる時がある。体が勝手に動く感じ。コツコツ努力を続けていくと結果は後でついてくる。」

菊川 和瑚 さん（高校では寮生活しながら剣道に没頭。卒業後は大学へ）

「中学から剣道を始めたので、高校でも劣っていると感じたことはある。しんどかったけど、北中で剣道や陸上で鍛われていたので続けられた。高校の剣道部では責任者を任されたことでも成長できた。私の場合、高校受験直前で進路を決めた。履修科目など事前にしっかり調べておいた方がよい。熱中してできるものを見つけることが大切だと思う。」

赤星 宗明 さん（高校でサッカー部キャプテンを務める。卒業後は大学へ）

「もともとは希望した高校でなく三者面談では涙した。しかし、高校で応援団長やサッカー部のキャプテンを務めた。グローバルチャレンジ研修に参加し台湾にも行った。高校では、まず人数の規模が違う。いろんな人がいる。持つべきものは友達。友の助けで今がある。大切なことは何かに没頭すること。目標があれば、それを全力でやることで次につながる。」

実際に歩き 体験して 地域に学ぶ

～ 1年生 地域探求学習 聖護寺で座禅体験 ～

こちらは1年生。学校から外に出て、貴重な学びをしてきました。鳳来公民館から徒歩で聖護寺へ。ご住職の林様の法話をいただいた後、座禅を体験しました。私も事前に歩いてみましたが、北中周辺とは更に一味違った空気感で、まさに心が洗われる感じがしました。

北中校区には、歴史的にも文化的にも貴重な場所が沢山あります。実際に歩き、体験して学ぶ機会を大切に、地域の良さを引き継いでいく責務を感じました。



【聖護寺について】※「菊池ふるさとかるた」より

1338（延元3）年に菊池武重が菊池の山奥の鳳来山に大智禅師を招いて建立しました。「菊池精神は大智禅師の教えから」と言われるほどでした。その後荒廃しましたが、昭和17年に長崎から村上素道師が入山。復興に努めました。薬師如来立像が安置されています。

ありがとうございました

今年度、保護者の皆様には、たくさんのご協力をいただきありがとうございました。至らなかった点も多々あったかと思いますが、皆様の支えのおかげで、北中の子どもたちは、沢山の「本物」に触れ、学びを深めることができました。次年度も菊池北中学校を、どうぞよろしくお願いいたします。